

文芸ひろば

詠歌の紹介

紫陽花俳句会

鶺鴒や瀬音も低き春の川
梅の香をより深くせり絵馬の数
たそがれは光つかれの春の川
笹舟や蛇行直進春の水

飯田 功
車田 きみ
萩原とし子
福田 宏通

出島短歌会

突然に老いの身おそう病ひなる嫁の優しさただ頼るのみ
集落を今しまたげる長い虹夕暮るる空につかの間に消ゆ
風い出て竹しなやかに起ち返る被さし雪を四方に散らして
雲きれてゆうぐれの野を染める日の真中に立ちて寂しき一樹
四季咲きの黄色のバラと競いあふひぐれにしむ赤いなんてん

小室 貞江
名倉 靨子
飯島 ヒロエ
岡田 恭子
浜田 留子

》 防災意識と地域の絆

「こころ」は見えないけれど
「こころづかい」は誰にでもみえる
「思い」は見えないけれど
「思いやり」は誰にでもみえる

これは、平成17年3月11日に亡くなられた詩人・宮沢章二さん(享年85歳)の詩の一部で、震災後、テレビコマーシャルで幾度となく流れたフレーズです。2011年3月11日、午後2時46分、あの日から3年が過ぎました。「天災は忘れた頃にやってくる」。あの日起きた数々の悲劇を繰り返さないためにも、決してあの日を忘れてはいけません。これから震災の意識を風化させず、私たち一人ひとりが考え、行動していくことが大切ではないでしょうか。

》 市民学芸員雑記帳

2013年は「常陸国風土記」編纂1300年を記念する年にあたり、茨城県では、記念事業が数多く開催されました。当市でも、特別展やツアー、講演会が開催され、多くの方が訪れました。「常陸国風土記」には、古代常陸国(今の茨城県)は、海や山の幸が豊富で気候も穏やかで景観もよく、常世の国とよばれていたと記述されています。風土記ツアーでは、「常陸国風土記」の史跡めぐりを開催し、当時の人々の暮らしや信仰の様子を知ることができました。茨城県や当市には、魅力ある文化資源が多くあります。市民学芸員として、発信力と提案力を高め、当市の魅力を多くの方に紹介していきたいです。[深井征一郎]。

▼投稿作品俳句・短歌・川柳を募集しています。4月7日(日)までに情報広報課へお願いします

投稿作品

八十路へと踏み出す一歩涅槃西風
よき風を捉へ飛び立つ帰雁かな
紅梅の隙間の空の青さかな
窓越しの春陽眠たくなりけり
しつとりと膨らみ増せり冬木の芽
誰かしらマスクの人へ返礼す
山肌の目覚めの色や春の雪
手弱女の車椅子押す春入り日
野菜みなじつとがまん雪の下
田園の空晴れ渡り初雲雀

桜井愛子
桜井筑蛙
中島暉子
西多恵子
萩原初枝
福田妙子
矢口三郎
山内勝昭
坂部幸子
大塚隼人

沽野はつ子
石塚清
菅谷味子
渡辺静江
田能幸雄

一緒に過ごした
時間が生んだ
「ありがとう」の言葉

新しい学びの場、
環境への旅立ち

卒業

3月12日、市内4中学校で卒業式が行われ、慣れ親しんだ学び舎や先生方、ともに学び遊んだ友人、後輩たちと別れを惜しむ姿が多く見受けられました。市から総勢404人の生徒が義務教育を終え、新しい未来へ一歩を踏み出しました。

